

1	ウバメガシ	ブナ科コナラ属の常緑広葉樹。備長炭の原料として利用される。和歌山県の県の木。材は緻密で極めて硬い。比重が大きく、水に入れると沈む。	12	サザンカ (山茶花)	ツバキ科の常緑広葉樹。ツバキは花卉が個々に散るのではなく萼と雌しべだけを木に残して丸ごと落ちるが、サザンカは花びらが個々に散る。このためツバキは、見舞いの時には贈ってはならないといわれる。
2	シャリンバイ	バラ科の常緑低木。葉は楕円形で厚く、深緑色でつやがある。縁には浅い鋸歯が出ることもある。5月頃白または淡紅色の5弁の花をつける。果実は黒紫色の液果で秋から冬にかけて熟す。海岸に多く、日向の岩の上などに見られる。	13	ケヤキ	ニレ科ケヤキ属の落葉高木。葉の鋸歯は曲線的に葉先に向かう特徴的な形であり、鋸歯の先端は尖る。秋の紅葉が美しい樹木でもある。個体によって色が異なり、赤や黄色に紅葉する。
3	フェニックス	ヤシ目ヤシ科ナツメヤシ属の常緑高木。大きな羽状複葉が特徴。正式名称はカナリーヤシと言い、南国ムードを醸し出し、宮崎県では県の木。	14	スズカケ	スズカケノキ科スズカケノキ属の落葉広葉樹。果実が楽器の鈴に似ていることからこの和名がついた。属の学名であるプラタナスと呼ばれることが多い。樹高は約10～30 mに達する。樹皮が、斑に剥げる特徴を持つ。葉は大きく、カエデに似ていて、掌状に5～7裂し、裂片には鋸歯がある。葉柄の基部に小さい托葉がある。
4	クスノキ	クスノキ科ニッケイ属の常緑高木。幹周囲10m以上の巨樹になる個体も珍しくない。単木ではこんもりとした樹形をなす。(トトロの木かな?) 全体に特異な芳香を持つことから、「臭しくすし」が「クス」の語源となった。	15	スダチ	ミカン科の常緑低木ないし中高木でユズの近縁種。徳島県の特産。同県下では江戸時代後半から栽培され、樹齢200年を越す古木もある。枝に小さなとげがある。
5	キョウチクトウ	キョウチクトウ科キョウチクトウ属の常緑低木もしくは常緑小高木。キョウチクトウ(夾竹桃)は葉がタケに似ていること、花がモモに似ていることからこの名がついた。乾燥や大気汚染に強いいため街路樹などに利用される。	16	メタセコイヤ	スギ科メタセコイヤ属の針葉樹。葉はモミやネズに似て線のように細長く、羽状に対生。秋に赤茶色に紅葉した後、落葉する。樹高は生長すると高さ25-30 m、直径1.5 mになる。当初、「化石」として発見されたために絶滅した種とされていたが、現存することが確認されたことから「生きている化石」と呼ばれることも多い。
6	ソテツ	裸子植物ソテツ科の常緑低木。記念樹としてよく公園、官公庁や学校などにも植えられる。ロータリーの真ん中などでは特によく植栽される。鉄を受けると元気になる(蘇鉄)という伝承があり、茎にクギを打ち込まれていることがよくある。	17	サクラ	サクラは、バラ科サクラ属サクラ亜属に分類される木であり、落葉広葉樹である。春に白色や淡紅色から濃紅色の花を咲かせ、日本人に古くから親しまれている。
7	ウメ	バラ科サクラ属の落葉高木、またはその果実のこと。アンズの近縁種であり、容易に交雑する。完熟しても果肉に甘味を生じることはない。	18	ツツジ	ツツジ科の植物であり、学術的にはツツジ属の植物の総称である。4月から5月の春先にかけて漏斗型の特徴的な形の花(先端が五裂している)を数個、枝先につける。合弁花の代表にあげられる。
8	クロマツ	葉は二葉で、7～12cmの長さで幅が1.5～2mm。球果は4～7cmの長さである。樹皮は灰黒色で厚く、亀甲状に割れ目が入りはがれる。アカマツと比較して黒っぽい樹皮をしており、名前はこれによる。汚染と塩害に強いために、街路樹や防潮林に使われる。いわゆる浜にある松原はクロマツで構成される。南あわじ市の木。	19	マメイヌツゲ	モチノキ科の植物の一種。常緑低木であるが、時に高木になる。葉は小さく、1.5-3cmで楕円形、厚みがある革質でのっぺりとしたつやがある。縁には丸い鋸歯がある。枝は灰褐色。刈り込みに強く、よく植え込みに使われる。
9	イヌマキ	マキ科マキ属の常緑針葉高木。高さ20mほど。樹皮は白っぽい褐色で、細かく薄く縦長にはがれる。茎はまっすぐに伸び、枝先は上を向くが、大木になると枝先は下垂する。葉は細長い、扁平で主脈がはっきりしており、いわゆる針葉樹の葉には見えない形をしている。庭木や防風林として、よく植栽される。	20	ヤマモモ	ヤマモモ目ヤマモモ科の常緑樹。高木で、成木は20mほどになり、幹は太くなると灰白色の樹皮に覆われ、多数の楕円形の皮目を持つ。古くなると縦の裂け目がでることが多い。葉は革質、つやのない深緑で、やや倒卵形をしており、密に互生し、多くは枝先に束生する。
10	イチョウ	裸子植物の1種。裸子植物門イチョウ綱の中で唯一の現存している種である。葉は扇形で葉脈が付け根から先端まで伸びている。また、葉の中央部が浅く割れている。イチョウの種子は、銀杏(ぎんなん、ぎんきょう)と言い、殻を割って中の仁が調理される。	21	サルスベリ (百日紅)	ミソハギ科の落葉中高木。8月頃咲く紅の濃淡または白色の花が美しく、耐病性もあり、必要以上に大きくならないため、しばしば好んで庭や公園などに植えられる。サルスベリの名は幹の肥大成長に伴って古い樹皮のコルク層が剥がれ落ち、新しいすべすべした感触の樹皮が表面に現れて更新して行くことによる。よって、猿滑。
11	ツバキ	ツバキ科ツバキ属の植物。照葉樹林の代表的な樹木。花期は冬から春にかけてにまたがり、早咲きのものは冬さなかに咲く。サザンカと類似。	22	カイスカイスキ	ヒノキ科。生長が早いうえ、潮風や大気汚染に強く、耐乾性もよい。主に円錐形や円筒形などに仕立てて、建物周囲に植栽される。関西では生垣として列植、対植されることが多い